

北中入試 傾向と対策（其の一 適性検査Ⅰ）

by 進学教室ウイッツ

(注)小学生の生徒さんが読むには難しすぎる漢字・表現も含まれています。

まずは、過去問【適性検査Ⅰ（作文）】をいくつか見てみましょう。

（過去問1） 次の詩を読んで、あなたが感じたことや考えたことを400字以内にまとめて書きなさい。

わたしはまだ

わたしは タネ
くらい土のなかで
ちいさく かたく
ひとりぼっち
きょう ながめても
きのうと ちっともかわらない
つくづくの タネ

けれどそだっていけば
いつかは花を
さかすかもしれない

春にさく たんぽぽかしら
夏にさく ひまわり
秋にさく のじぎく
冬にさく さざんか なのかも

おおきな花はつけないけれど
一年じゅうみどりの
まつ

じっと土のなかでねむり
だれかをまんぶくにさせる
じゃがいも かもしれない
ともだちと ならんで
冬にぎんいろの風になる
すすき もいいな

わたしはまだ タネ
あたたかな土にまもられ
雨のしずくを すい
ゆっくりと じぶんをそだてている
あしたのための
わくわくの タネ

三島慶子 〈PHP研究会〉

【解説】

詩が題材になっています。感じたことや考えたことを書く問題です。

まず、「私(タネ)の思い」を感じ取りましょう。私(タネ)は詩の中で、将来の自分やその時の仲間との関わりを想像しながら、未来へ向かって少しずつでも成長していこうとしています。自分を取り巻く環境(あたたかい土)のなかでゆっくり育っていく私(タネ)の思いを書き表しましょう。

そして、この作文の中心ともいえる「自分(作文を書く者)の考え」を述べましょう。「私(タネ)の思い」から「自分(作文を書く者)の考え」へ上手に展開したいところです。例えば、将来を夢見てわくわくしている私(タネ)の思いから発展して、これからの自分(作文を書く者)についての考えを書いてみてはど

うでしょうか。自分が将来どんな大人(花)になりたいか、どのように他の人と
かかわっていきたいか(または、そのために今何をどうすべきかなど)、理想
やそのための準備などを素直に書けばよいと思います。等身大の夢でかまいま
せん。

詩全体を通して作者が何を伝えようとしているのかがよくわからない場合、
部分的にでも解釈して、そこを上手に広げることとなりましょうが、私(タネ)
の気持ちに反する内容にならないように気を付けなければなりません。私(タ
ネ)は、悲しんでいるのではなく、むしろ希望にあふれているのです。例えば
「タネがひとりぼっちでかわいそう…」では、詩のテーマから離れていってし
まいそうです。「タネはどんなにがんばっても、その花にしかたないよ」な
どと、少しひねくれた解釈をするのも勧められません。「いろんな花があるよ
うに、いろんな個性があるのだ」「私もいま、少しずつ何かになろうとしてい
る」「だから、今を大切にしたい」「そして、将来、〇〇な私だったらいいな」
といったような展開のしかたなら、この詩のイメージに合った内容になるの
ではないでしょうか。

私(鈴木)もちよっと書いてみます。

(作文例)

【「この詩を読んで、私は●●と感じました」と書くと、一文が長くなりそう
です。ので…】

この詩の中の「わたし」は、子どもの頃の作者だと思います。少女(作者)は、将来
の自分を想像しながら少しずつ成長しています。でも、自分がどんな大人になるのか
まだわかっていません。どんな大人になりたいのかも、はっきりとはしていません。

私もその少女と似ているところがあります。「将来何になりたい」と尋ねられても、
きちんととした答えが出せません。でも、何気なく「未来の私」を夢見ているときが
あります。しかし、どこか遠い世界のようにも思えます。

けれども、私が大人になるのは、そんなに遠い未来ではありません。誰かが「あっ
という間だよ、大人になるのは」とも言っていました。将来へ向かって、もっとしっ

かりと準備すべきだと思います。

もうすぐ中学生になります。ひとつ大人に近づきます。未来の自分を想像すると、確かに詩の少女のように「わくわく」してきます。(終)

さすがに、小学生になりきって詩を書くのは難しいです。

【対策】

与えられる時間は40分で、字数は400字程度となります。詩が題材になっている場合、(焦りも生じるので)その詩を何度も何度も繰り返し読む余裕はないでしょうが、あまり雑に読み過ぎると何を書いたらいいのかわからなくなり、かえって時間を使ってしまうことになります。とりあえず1～2回はじっくりと読むべきでしょう。詩の解釈は読み手の自由といっても、根拠のない解釈はいただけません。緊張して詩が頭に入らなかったら、「タイトル」、「繰り返しされているフレーズ」、「最後の連で訴えていること」などを手掛かりにもう一度よく読んで、自分なりに作者の心情を感じ取る必要があります。

また、詩や小説が題材になっていても、その解釈や要約より自分(作文を書く者)の考えを書くことがより重要となります。いろんなテーマで作文を書き、自分の考えをまとめる練習をしておきたいところです。「自分の将来の夢」など、よく作文や面接のテーマの全体または一部になるものは、特に練習しておくべきでしょう。

★次のテーマについて、思いつくことをノートに書いてみよう！

- 将来の夢(自分について)
- 中学校に入ったら、どんなことをしたいか

(過去問2) あなたがこれまでに何かを作った体験の中で、印象に残っている体験について、何をどのように作ったのかを説明し、その時の気持ちもあわせて、400字以内で書きなさい。

【解説】

今回は、「何かを作った」経験を作文にします。何をどのように作ったのかを説明する際、最初から最後まで作った手順を説明書のように書くだけではおもしろくありません。作業が進むにつれ、自分や仲間の心理がどのように変化していったかを所々に書きましょう。盛り上げたい場面では、目や耳などから感じたものを書くことで、より現実に即した描写ができます。もちろん、その時の会話の内容あるいは心の中のつぶやきを入れるのも良い考えです。擬音語、擬態語も時に効果的です。最後に、「その体験を通じて何を得たか」、「その経験をどのように生かしているか」などを付け足してもいいでしょう。

私も書いてみます。

(作文例)

【「僕が印象に残っている体験は、●●です」と書くと、一文が長くなりそうです。ので…】

六年の夏休み、僕は宿題の自由研究として食塩の結晶を作ることにしました。お盆にうちに来た親戚のおじさんから教えてもらった実験でしたが、聞いた手順は簡単なものでした。食塩を溶かしたコップの口に割り箸をかけ、そこから糸を垂らすだけのものでした。「これならできそうだ」と、すでに半分終わった気分でした。

しかし、最初から困りました。まず、どれくらいの食塩を溶かしたらよいのかわかりませんでした。そこで、コップを三つ用意し、それぞれに違う濃度の食塩水をいれてみました。ところが、どんな結び目をどれくらいの大ききで作ればよいのか悩んでしまいました。仕方がないのでコップをさらに増やし、三種類の濃度それぞれに対し二種類ずつ結び目を試すことにしました。「で、どこに置こうか……」三つ目の疑問でした。さすがにこれ以上コップを増やす気もなれず、結局、適当に三か所に分けて置くことになりました。

数週間後、二つのコップから結晶を確認しました。できた結晶の形が二つの間で違って、とても興味深い結果となりました。しかし、残りの四つのコップからは、何の結果も得られませんでした。実験をやる前は簡単そうに思いましたが、実際にやってみると、想像以上に難しいものでした。

それ以来、やる前から「これは簡単だ」などと決め付けないようにしています。何かを初めてやる時には、予想できていなかったことが起こり得ることを学んだからです。(終)

ちょっと、長くなりすぎました。しかも、最後の段落がうまく書けていなくて反省です。

【対策】

過去の経験を題材に作文を書くことは少なくありません。これまでに経験したことで、感動したこと、楽しかったこと、苦労したこと、あるいは悔しかったことなどを、いくつか作文にしておくといよいでしょう。(学校行事・勉強・家事手伝いなどをテーマに作文を書いてみましょう)

★次のテーマについて、思いつくことをノートに書いてみよう！

●小学生時代にがんばったこと

★学校行事・学級委員・当番…

★家での勉強・お手伝い…

★スポーツ・習い事…

★ボランティア・子供会…

近年の(高松北中学校の適性検査の)作文のテーマを見ると、比較的自由に書けるものが多いです。しかし、全国的に見ると、「意見文」のように論理性を求めるものも出題されています。次の作文のテーマを見てください。

(例題1) 次にあげるA、Bの意見のうち、どちらの意見があなたの考えに近いでしょうか。どちらかの立場に立って、あなたの意見を述べなさい。(自分の意見の根拠を明確に示すこと。)

[Aの意見] 古いものより、新しいものの方がよい。

[Bの意見] 新しいものより、古いものの方がよい。

【解説】

ここでは意見文の書き方(少し私なりにアレンジしたもの)を説明します。今回のポイントは、「反対の立場からの意見(反論)をあえて取り入れ、それにさらに反論する」です。(言葉は悪いですが)相手に自分の弱点をわざと突かせておいてそれを跳ね返します。自分は弱くないことを見せつけるためです。

例えば、

わたしは、新しいものより古いものが好きだ。

【自分の立場や考えを明らかにする(スタート!)]

なぜなら、古いものには愛着がわくからだ。

【理由を述べる(例などを加えるとよい)]

確かに、古いものには、新しいものもつような新しいアイデアや技術が使われていない。

【(仮想の)相手の反論を自分から表に出す(あえて弱点をさらけだす)]

しかし、新しいアイデアを求め、次から次へと買い換えていっても、ずっと満足することはないだろう。永遠に新しいものなどないのだ。

【(仮想の)相手の反論をかわす(必ずしも弱点とはいえないぞ!)]

私は、幼い時に父からもらったオカリナを今も大切にしている。それを見ると、あのころのことを思い出す。それは、時が経つほどに味わい深くなる。

【もうひと押しする(最後の攻撃!)]

やはり、私は古いものが好きだ。思い出が詰まった古いものが好きだ。

【最後にもう一度自分の立場を述べる(ゴール!)]

【対策】

意見文は小学生には少し難しすぎるかもしれません。ところが、わたしは…なぜなら…**確かに**…**しかし**…やはり…といったパターンだけは、すぐに覚えてしまいます。しかし、たいていの場合、論理性に欠けていて、「見せかけ意見文」になっています。パターン化していて組み立てが楽になるので、生徒さんは好んでこの手法を使おうとしますが、使い方を誤って、しばしば指導者を困らせます。とはいえ、一度マスターすれば、便利な道具になる

ことには違いありません。論理性に富んだものになるまで、生徒さんの書いた意見文は、大人からいろいろと意見されるべきでしょう。(回数をこなす必要があります。)

高松北中学校の適性検査の作文では、「自分の考えをテーマにそってまとめる」ことを求めていますので、自己分析を求めるような作文は出ないかもしれません。しかし、自分を見つめる機会はなかなかありませんし、また、面接などでも役に立つかもしれませんので、この「自己分析」をテーマとした作文を一度書くことをお勧めします。

(例題2)「わたしの性格」について書きなさい。

【解説】

自分のことは自分が一番わかっているはずなのに、意外と自分のことを説明するのは難しいものです。「これって、私だよな…」と強く印象付けるエピソードを思い浮かべてみましょう。そのエピソードから自分を分析する形で作文を書くのも一つの手です。

例えば、

私はこの前…。【エピソード】

どうしてこんなことになってしまうのか。【問いかけ】

…だからか。【自己分析開始】

そういえばあの時も…。【エピソード2】

私の性格は、…にちがいない。【分析結果】

もう少し…すべきと思う。【反省…】

しかし、こんな性格にもいいところがあると信じる。【違う角度】

こんな性格だからこそ…できるのだ。【発見!】

これからは、もっと…したい【展望】

【対策】

やはり、エピソードが決め手になるのではないのでしょうか。「あー、それわかるわー」なんて思わせる「あるあるエピソード」が書ければ、ぐっと読み手の関心を引くことができるのではないのでしょうか。試験当日、200人前後の受験者が、同じテーマで作文を書きます。そのなかでも目立つような考えやアイデアを思いつくのは困難かもしれません。しかし、「あるあるエピソード」は、ふだんその辺で起こっているありふれた話でいいわけですから、思いつくチャンスは大です。思いついたら、それを先頭にもっていったらどうでしょうか。作文の書きだしは重要です。よい印象をもったまま残りの部分を読んでもらうためです。ふだんから、「あるあるエピソード」を探しておきましょう。きっと、作文に役立ちます。

★次のテーマについて、思いつくことをノートに書いてみよう！

- 自分の性格（長所）
- 自分の性格（短所）
- 自分の性格がわかるようなエピソード

例) 父が母に「あそこを右に曲がればよかったよな？」と聞いたところ、母は「さあ、どうだったかした」と、困った様子だった。その会話を聞いていた僕は、「そうだよ、あそこを右で合っているよ」と、二人に助言した。しかし、実はその時あまり自信なかった。父の口調からして、「父は道を覚えているにちがいない」と、僕はとっさに判断してしまったのだ。僕の言うことを信じた父はその通り右折したが、その右折は間違いだった。その後道に迷って大変な遠回りをしてしまい、結果、予約していたレストランにかなりの遅刻をしてしまった。（よくも知らないのに、適当なことを言ってしまい、周りに迷惑をかけてしまった…というエピソード）

生徒さんたちの作文を読んでいて、「説明が足りない…」あるいは「この部分は余計だ…」と、常々感じます。一番言いたいことがまだ決まっていないにもかかわらず、適当に書きだしてしまいます。よって、字数を埋

めることが目的になって、さほど重要でもないことをくどくど書いています。あげくの果てには、同じことを何度も書いたりします。そうかと思えば、大事なところで説明がありません。「がんばればいいと思います」と書いてあるので、「何をどのように？」と尋ねると、「思い浮かびませんでした」と、答えます。時に、一番大切なものがありません。

他にも、

- 詩のような作文を書く生徒さんもいます。読んでいてリズムはよいのですが、つなぎ言葉も少なく、(言葉自体にインパクトはありますが)かえて文の内容が把握できません。

※「自分の考えをまとめる」のが目的なので、感性にうったえるような表現は、一部分にとどめておきましょう。

- やたらと長い文を書く生徒さんもいます。ひとつの文にいくつも主語らしきものが出てくるのですが、述語とのつながりが悪く、結局、文法的にミスをおかしています。

※ 日本語は英語と違い、主語と動詞が離れています。文の最後の最後に重要な情報が詰まった述語が来ます。一文が長くなると、その重要な述語がなかなか現れません。主語にいたっては、度々省略されます。一文が長いと、読み手は頭の中で処理できないままモヤモヤした気持ちで文を読むこととなります。一文は短く！が基本だと思います。そして、それらの文をどのようにつなげていくかが重要となります。上手につなぎ言葉を使ったり、あるいは省略したり、ここでセンスが問われます。通常かなり練習が必要となります。

- 点の打ち方が、あまりに雑な生徒さんもいます。

※ 「もしももう一度」が「もしも、もう一度」となると、読みやすくなりますが、「自転車を買った」が「自転車を、買った」となったりすると、文章が点だらけになって読みにくくなります。親切な点を打ち、不親切な点をなくしましょう。

- 極端な論理の展開をする生徒さんもいます。

※ 「もしも A 君が毎日公園でゴミを捨てたとすると、誰も公園に来なくなります」を読んで、「ちょっと極端やなあ…」と感じるのは私だけでしょうか。「もしも A 君が毎日公園でゴミを捨てたとすると、多くの人が不愉快な思いをし、なかには公園に足を運ばなくなる人も出てくるでしょう」くらいの展開なら OK かと思うのですが…。

- ひらがなだらけの生徒さんもいます。
- 出だしばかり気にかけて、全体を見渡そうとしない生徒さんもいます。
なかなか書き出さないので、
「とにかく、思いつくことから書いてみなさい」「あとで組み立てなおしてあげるから」と言うと、
「ヒントちょうだい!」と、催促してくる生徒さんもいます。
「ヒント?」「クイズじゃないよ…」ため息がこぼれそうです。

※ 作文を書くことは、算数の文章題を解くのと似ているかもしれません。「何を求めるのか(算数)」「何を言いたいのか(作文)」を考え、次に、与えられた「数量(算数)」「ネタ(作文)」を眺めながらさかのぼって考えていけば、結果、自ずとスタートが見えてきます。

自由に書くことができる作文ほど、意外に書きづらいようです。最後に、こんなテーマを用意しました。参考にしていただけると幸いです。

(例題3) あなたが思い描く「未来の世界」を書いてください。

【解説】

【授業中のワンシーンより】

「先生、何書けばいいの?」(生徒さん)

「えっ?」(先生)

「未来の世界って何？」

「……」

「いや、どういう意味？」

「君の想像する未来の世界を書けばいいよ」

「……」

「理想の未来でもいい」

「……」

「『この若者に未来をたくしたい』って思わせるような作文書いてくれたらうれしいなあ」

「……」

「『戦争でこの世が終わっている』より
『戦争のない世が始まっている』がいいな」

「……」

「いや、例えばの話だよ」

「…ロボット…」

「ロボット？」

「何でもやってくれる…」

「…それで人間が幸せになれるのなら、いい
と思うよ」

「楽になる…」

「で、人間は何をするの？」

「遊ぶ…でも、暇になる…」

「それで本当に幸せになれる？」

「いいや……」

「ならば、その時人は何を求めるだろうね」

「……」

【授業中のワンシーン(終)】

仮に、いくつかのキーセンテンスが見つかったとしましょう。
例えば、

「ロボットがなんでもやってくれる」

「人間は楽になる」

「人間は自由になるが暇にもなる」

「人は幸せになったのか？」

と言った感じに。

ところが、「書き方がわからない」と、止まってしまう生徒さんが多いのです。何か、必殺パターンはないでしょうか。さすがに、必殺パターンはありませんが、使い道の多いパターンはあります。といっても、当然中身は自分で考えなければなりません。また、使い方をまちがえると、とても変な作文になってしまいます。これも訓練が必要です。二つほど紹介してみます。

まずは、(例題1)で紹介した意見文の書き方を利用してみます。もちろん、この(例題3)では意見文は求められていません。しかし、「意見文のような書き方をしてはいけない」ともされていません。

(作文例)

ぼくが思う未来の世界では、精密なロボットがたくさん開発されていて、そのロボットたちが人々を助けています。例えば、危険な場所でロボットが作業をしています。人がするほとんどの仕事をロボットができるようになっていきます。

ところが、**僕は**、「人々は相変わらず汗水流して働いている」と、**思います**。**なぜなら**、人は働くことから得る喜びを必要とする**からです**。

確かに、働かなくても趣味などを通じて同じようことが体験できる**かもしれません**。**しかし**、趣味としてやりたいことだけをするのと、仕事として人に役立つことをするのは、その時の責任感も、あとからくる達成感も違います。

それに、嫌な仕事をすべてロボットに任せ、自分はやりたいことだけやるようになったら、人間はどうなってしまうでしょう。やっていることに飽きては、また新しいものを求め、ついにはやることを失ってしまうのではないのでしょうか。人は働くことに生きがいを感じる生き物で、**やはり**、働くことを完全に止めてしまったりはしないと**考えます**。

ぼくが思う未来の世界では、人々は元気に働いています。そして、ロボットたちは、人々が安心して働けるように街のあちこちで活躍していることでしょう。(終)

次は、自分で質問して自分で答えるパターンです。これは、多くの生徒さんが利用しています。長所は、話がテンポよく展開するところでしょうか。インタビューを聞いているよう感じず。質問するごとに、テーマが具体化されるのでわかりやすくなります。しかし、「中身が薄いなあ…」と感じる時もあります。何が最も言いたかったのか、それがわかるように仕上げるのは難しいかもしれません。ちょっとやってみますね。

(作文例)

みなさんは、「未来の世界はどうなっていますか」と質問されたらなんと答えますか。私なら、「ロボットが何でもできるようになっている」と答えます。未来の世界では、精密なロボットがたくさん開発されていて、そのロボットたちが人々を助けています。例えば、危険な場所でロボットが作業をしています。人がするほとんどの仕事をロボットができるようになっています。

さて、その時人間は何をしているのでしょうか。毎日好きなことをしているのでしょうか。私なら、大好きなピアノの練習をいっぱいしていると思います。しかし、そんな毎日、いつかは退屈な日々になってしまうかもしれません。けれども、働きたくなったら、ロボットを止めて、また働けばいいのです。

でも、そんなふうに急に働き始めても、一度身に付いた怠け癖がなおるのでしょうか。おそらくまたすぐにロボットを頼ってしまうに違いありません。そして、先生ロボットからお叱りを受けているかもしれません。

結局、ロボットがいくら優秀でも、人間自体がしっかりしていないと意味がないようです。みなさんは、こんな世界をどう思いますか。(終)

ちょっと極端すぎたでしょうか。質問形式で強引に展開しているので、なんだかだまされているような印象をもった方もいるでしょう。私自身、どの段落に言いたいことの中心があるのか説明できません。あえていうなら、最後の段

落でしょうか。でも書くのは楽でした。第2段落以降は、白紙の状態からでも一度も詰まらずに1～2分で書けました。

【その他】

北中の適性検査では、あくまで「自分の考えをまとめる」能力が試されているわけですから、その考え自体が必ずしも高度である必要はないかもしれません。しかし、(個人的には)見せ場や子供らしい個性的なアイデアがあると、やはり楽しく読めます。採点者も人です。少しは影響があるのではないのでしょうか。

「作文は面接だ」「採点者は作文でその人を見ている」という人もいます。それが本当かどうかはわかりませんが、実際に作文でその人の人柄を感じることはあるでしょう。もちろん、誤解も含めて。むしろ悪い印象を感じ取ることの方が多いかもしれません。「情」のない人間に映るような作文は(個人的には)書いて欲しくありません。

進学教室ウイッツの北中入試対策にご関心のある方は、ホームページの小学部のページをご覧ください。上段に公立中学進学コース、下段に高松北中受験コースの説明がございます。

進学教室ウイッツの北中入試対策を受ける生徒さんの担当は、私(鈴木)がさせていただいております。北中入試対策授業の担当者が(現在)1名(鈴木)しかおりませんので、定員になり次第(順に)締め切らせていただきます。(詳しくは、お問い合わせください。)

また、何か質問がありましたら、遠慮なく、〈進学教室ウイッツ〉鈴木まで、お電話やメール(ホームページのお問合せからメールできます)にてお問合せください。

進学教室ウイッツの(高松北中学校入試)合格実績

2015年度の結果：8名合格【ウイッツからの受験者数8名】

さて、次は**適性検査Ⅱ**について…

北中入試 傾向と対策（其の二 適性検査Ⅱ）

by 進学教室ウイッツ

過去問【適性検査Ⅱ】の内容を見てみましょう。

単元名・学年は2014年度のテキストを参考にしています。また、実際のテスト問題では、複数の単元（複数の教科）が融合されている場合もあります。よって、単元名・学年は、あくまで参考程度にご覧になってください。

※単元名よりも具体的な項目名を付けたものも含まれています。

※単元名がはっきりしないものは、「その他」としています。

※学年を特定できない場合は、学年を記入していません。

2014年度

理科：天気の様子と気温（4年）・天気の変化（5年）

植物のからだのはたらき（6年）・月や星の動き（4年）

社会：環境を守る（5年）・その他

算数：割合（5年）・規則性の問題・その他

2013年度

理科：ものの溶け方（5年）

社会：工場の分布（5年）・第二次世界大戦後の日本（6年）

わたしたちの県（4年）

算数：図形・その他

2012年度

理科：ふりこのきまり（5年）

社会：地図の見方（4年）・室町時代の文化（6年）・

算数：規則性の問題・ともなって変わるふたつの数量

2011年度

理科：物の温まり方(4年)・物の体積と力(4年)

社会：明治維新(6年)・選挙(6年)

算数：図形・割合(5年)・その他

2010年度

理科：電気の働き(4年)

社会：都道府県名・資料からの分析・これからの食糧生産(5年)

算数：規則性の問題

理科・社会・算数を総合的に見ると、4年から6年生までバランスよく出題されていると思います。しかし、科目ごとに見ると必ずしもそうではありません。私の印象としましては、

理科： 4年から6年生までどの学年の内容もよく出題されているので、4年生以降の理科は、全て復習しておくべきである。特に実験や観察をテーマにしたものは注意が必要である。「まずは問題(目的を達成する上で解決すべきこと)を発見し、さらにはその解決策をわかりやすく説明する」問題や、「与えられた資料を分析し、かくれた真実を見出す」問題などがある。求められる知識はたいてい教科書の基本レベルのものだが、問題を解く際にシミュレーション(模擬実験)的な考察を要求するものなど、応用力が必要とされる問題もある。また、日常生活における身近なことがらに対する常識など(例えば、乾電池を使う時の注意点)を問うものもある。難易度は問題によってさまざまであるが、難易度の低い問題でも、文章で説明するタイプのもので、過去問などで十分に練習しておくべきである。

社会： 5年(地理)・6年(歴史)の内容がよく出ている。また、香川県がテーマになることがある。それから、6年の後半の「政治」等(公民分野)がテーマになることがある。地理は、資料の分析をテーマにしたものが多い。歴史は、傾向がはっきりしていない。難易度は問題によってさまざまであるが、難易度の低い問題でも、文章で説明するタイプのものが多いので、過去問などで十分に練習しておくべきである。

算数： 割合・図形・規則性の問題がよくでる。比例などの関数も注意したい。難易度は問題によってさまざまであるが、難易度の低い問題でも、式、ことば、あるいは図で「どのようにして答えを導いたか」説明するタイプのものが多いので、過去問などで十分に練習しておくべきである。割合のみ、単なる計算問題としてよく出題されている。概数で求めさせる場合も多い。

どの問題も全般的に、「まずは目的を達成する(答えを導く)上で解決すべきことを発見し、次にその解決策を考え出す。そして、答えを導くまでの過程を、論理的に説明する。」といった能力を試しています。問題のテーマは、「日常生活における身近なことがらに対するもの」が多いです。一つの大問の中に、複数の教科が横断的に扱われているものもありますが、基本的な知識や考えを組み合わせたら解ける問題が多いと思います。しかし、不慣れな問いかけに最初は戸惑うかもしれません。しっかりと準備しておくべきでしょう。

進学教室ウイッツの北中入試対策にご関心のある方は、ホームページの小学部のページをご覧ください。上段に公立中学進学コース、下段に高松北中受験コースの説明がございます。

進学教室ウイッツの北中入試対策を受ける生徒さんの担当は、私(鈴木)がさせていただきます。北中入試対策授業の担当者が(現在)1名(鈴木)しかおりませんので、定員になり次第(順に)締め切らせていただきます。(詳しくは、お問い合わせください。)

また、何か質問がありましたら、遠慮なく、〈進学教室ウイッツ〉 鈴木
まで、お電話やメール（ホームページのお問合せからメールできます）に
てお問合せください。

進学教室ウイッツの(高松北中学校入試)合格実績

2015年度の結果：8名合格【ウイッツからの受験者数8名】

さて、次は面接について…

北中入試 傾向と対策 (其の三 面接)

by 進学教室ウイッツ

まずは、面接のマナーについてです。

入室時の流れ

- ① 部屋のドアをノックし、「どうぞ」の返事を聞いてからドアを開けます。

(ドアノブはまだにぎったまま)

- ② 「失礼します」と言って、室の中に入ります。

(ドアノブはまだにぎったまま)

- ③ ドアのほうを向いて(ドアノブを持ちかえ)、両手でドアを静かに閉めます。

※この時、おしりをできるだけ試験管に見せない方がきれいですが、あまり気にしないで構わないと思います。

- ④ ドアを閉めた後、ドアの前で面接官の方に向き、まず一礼し、それから学校名・氏名を言う。

※頭を下げる角度も、あまり気にしないで構わないと思います。

- ⑤ 背筋を伸ばした状態で、イスの横まで歩いていきます。

※イスの右に立つか左に立つかは状況によって判断すればよいでしょう。単純に、入口に近い方に立てばよいのではないのでしょうか。

(イスの横に立ったまま)

- ⑥ 「どうぞ着席して下さい」などの指示が出たら、着席します。

※このタイミングで「よろしくお願いします」と言って一礼をし、それからから着席してもいいでしょう。イス背もたれに寄りかからず、背筋をピンと伸ばします。

ところで、ノックは何回すればよいのでしょうか？「2回はトイレで使うノックであって面接などの場では不適切だが、3回なら略式ではあるが面接時には適切だ」と言う方も多くいます。国際標準が参考にされたりして、日本のマナーも少しずつ変化しているのでしょうか。そんな変化に無頓着な人なら、「3回も4回もノックしたら、かえってしつこいだろー」と言うかもしれませんが、おそらく小学校は、3回を勧めているのではないのでしょうか。

また、目線はどうすればよいでしょう。「面接官の鼻のあたり」を見たらよいか、「面接官の顎のあたり」を見たらよいか、いろいろ聞きますが、私の考えでは、睨みつけるような怖い表情になっていなければ、例え面接官の目を見ていても問題はないと思います。ただ、最初から面接官の目を見つづけていると、後に視線をそこから外するのが難しくなる(よって辛くなる)方もいますので、鼻のあたりに視線を送るようにするのも良いでしょう。受験者と面接官の間には適度な距離があるため、面接官側からはおおよそ目が合っているように感じるはずです。もちろん、時々面接官の目を見ても問題ありません。

退室時の流れ

- ① 「以上で終わります」などと言われたら、静かに立ちあがります。
- ② イスの横に立ち「ありがとうございました」と言って一礼します。
- ③ ドアの前まで歩いて行き、ドアの前まで来たところで、再び面接官のほうを向き、「失礼しました」と言って頭を下げます。

④ 両手でドアを開けて退室し、静かにドアを閉めます。

学校で面接の練習した方は、その時に習った方法で面接にのぞんでください。もし、学校で練習していない場合は、お家で練習しておいてください。面接のマナーは、本やインターネット等で詳しく紹介されていますが、時間がない方は、上の資料を参考にして練習してください。

最低、次のことは答えられるようにしておきましょう。

① 高松北中学校を志望した理由

パンフレットに書かれているような北中の特色、文化祭の時の印象、家族や憧れの先輩が北中・北高にいることなど…

② 卒業後、どのような道に進みたいか

将来、何になりたいのか。そのために、どんなことを学びたいか。など…

③ 小学校時代に頑張ったこと

委員会・学校行事・係りなど学校内でがんばったこと、子供会・ボランティア・習い事など学校外で頑張ったこと…

とにかく、早口にならないようにしましょう。かまずにペラペラしゃべりきるのが目的ではありません。あくまでも、試験管に伝えるのが目的です。練習通りにいなくてもかまいません。途中でつまっても、ゆっくりしゃべったらなんとか伝わります。言い直してもかまいません。少くく間が空いても大丈夫でしょう。面接官も生徒さんが緊張していることを考慮に入れて聞いてくださっているにちがひありません。

とは言え、できるだけ過剰な緊張は避けたいでしょう。そのためには、練習しかありません。早めに準備しておきましょう。

入試前は、面接の練習などで時間を取るのも、あまり勉強できないかもしれません。1月に入ったかと思うと、あっという間に入試の日が来ます。適性検査の対策は、できるだけ早めにスタートし、余裕を持って新年を迎えましょう！

進学教室ウイツの北中入試対策にご関心のある方は、ホームページの小学部のページをご覧ください。上段に公立中学進学コース、下段に高松北中受験コースの説明がございます。

進学教室ウイツの北中入試対策を受ける生徒さんの担当は、私(鈴木)がさせていただきます。北中入試対策授業の担当者が(現在)1名(鈴木)しかおりませんので、定員になり次第(順に)締め切らせていただきます。(詳しくは、お問い合わせください。)

また、何か質問がありましたら、遠慮なく、〈進学教室ウイツ〉鈴木まで、お電話やメール(ホームページのお問合せからメールできます)にてお問合せください。

進学教室ウイツの(高松北中学校入試)合格実績

2015年度の結果：8名合格【ウイツからの受験者数8名】

鈴木 俊二 〈進学教室ウイツ〉

